

時制のつながりと使い分けについて

普通、文法学習というのは「現在形」、「点過去形」、「現在分詞」、「比較級」といった風に文法項目を一つずつ学べるように設計されています。これはこれで効率的な学習法ではあると思っていますが、文法を理解するには別の角度からのアプローチも必要です。というのも、我々が個別に学習する文法項目というのは、言ってみればパズルのピースのようなものです。それぞれがどのように組み合わさり、最終的に全体でどのような画になるのかを理解して初めて文法の知識は真価を発揮します。そして、こうして繋がりを意識しなければ、「わかったようなわからんような……」というモヤモヤ感がずっとついて回るでしょう。普段の文法の授業では、あまり、文法事項同士の関連について扱えないんですよね、時間なくて。

例えば、例年、「時制の一致」がテスト範囲になると（落单的な意味合いの）事故が多発します。先生ルーキーの頃は、「近頃の子たちはまともに中高の英語の授業で文法まともに習ってないせいかなあ」とのんきに構えていたのですが、考えてみたら今よりもずっと文法詰込みが厳しかった私の中高時代でも時制の一致をきちんと理解していた人は少数だったように思います。何故、時制の一致は難しいのか？それは、**時制の一致という現象（ないしルール）を理解するには「現在形」・「点過去形」…**といった個別の時制について理解をしているだけでは不十分で、これまでに学んできた様々な時制が全体でどのような体系を成しているかを理解しておかなければならないからです。

というわけで、時制の一致を扱うにあたって、スペイン語の時制の体系をまとめておこうと思った次第です。唐突ですが、「現在、現在完了、点過去、線過去、未来、未来完了、過去未来、過去未来完了。以上の7種類の時制を一枚の表にうまくまとめよ」といわれたらみなさんはどのような表を書くでしょうか。アイディアがぱっと出ないようであれば、それはスペイン語の時制の体系を理解していない、ということになるかもしれません。つたびのスペイン語では以下のようなまとめかたをしています。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablabo 線過去	Hablé 点過去
過去の過去	Hablabo 線過去	Había hablado 過去完了（大過去）
未来	Hablaré 未来	Habré hablado 未来完了
過去から見た未来	Hablaría 過去未来	Habría hablado 過去未来完了

当然ですが、この表を丸暗記しても特にいいことはありません。「何故このようにまとめられるのか」を理解することが大切なわけです。というわけで、以下のまっさらな表を埋めながら、スペイン語における時制の体系を考えましょう。

ポイント 1. 過去・現在・未来ではなく、過去の過去・過去から見た未来・過去・現在・未来

我々はなんとなく、「過去・現座・未来」という区分を自明なものと受け入れているわけですが、この感覚に引きずられるとスペイン語や英語の時制を理解できません。両言語には、**過去・現在・未来に加え、過去のある時点から見た過去、過去のある時点から見た未来に起きた出来事を表すための専用の時制が存在します。**「ニッチ過ぎる！」とお思いでしょう。私もそう思います。ただ、そういう我々からするとマニアックすぎる時間帯を表すための活用形が存在するということを受け入れましょう。というわけで、表の縦軸にこの五種類の時間帯を入れます。

現在		
過去		
過去の過去		
未来		
過去から見た未来		

ポイント2. 「終わってない」？「終わっている」？

先述の五種類の時間帯がスペイン語の時制の一つの太い軸なわけですが、もう一本、重要なものがあります。それは「終わっていない出来事」を表しているのか？それとも、「終わった出来事」を表しているのか？というものです。

太い軸はこの二本なので、つまるところ、スペイン語の時制とは、過去の過去・過去から見た未来・過去・現在・未来という五種類の時間にわたるパラメーターと、終わっているか否か、という二種類の性質の組み合わせなのです。もっとかみ砕いて言えば、スペイン語には、

現在時点で終わっていない出来事を表すための専用の活用形

現在時点で終わった出来事を表すための専用の活用形

過去時点で終わっていない出来事を表すための専用の活用形

過去時点で終わった出来事を表すための専用の活用形

・

・

・

過去から見た未来時点で終わった出来事を表すための専用の活用形

という 5×2 種類の活用形が存在していることになります。多分まだ、わかりづらいでしょう。先の表の一番上の二列に「終わっていない」・「終わった」ととりあえず記入しておきます。

	終わっていない出来事	終わった出来事
現在		
過去		
過去の過去		
未来		
過去から見た未来		

残りの空欄を埋める過程で、このセクションで言ったことは自然に理解できると思います。よくわからなくてもとりあえず先に進みましょう。

1. 「現在時点で終わってない出来事」、「現在時点で終わった出来事」

「現在時点で終わっていない出来事」を表すための活用形がスペイン語には存在しています。つまり、『私はスペイン語を勉強する』のような**現在の習慣**だとか、「ああ、それ？今やるよ」といった動作です。こうした出来事を表す活用形が**現在形**です（そらそうよ、という話ですが）。まあ、書きこんでおきましょう。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	
過去		
過去の過去		
未来		
過去から見た未来		

この**現在形**についてはよくご存じかと思いますが、スペイン語には現在形の他にもう一つ、現在の出来事を表すための活用形が存在することをご存知でしょうか。それが**現在完了形**です。「私は、今、宿題を終えた」といったように、今終わった出来事を表したり、「私は今までにスペインに行ったことがない」というように、今までの経験を表すのに使ったりします。表を埋めましょうか。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去		
過去の過去		
未来		
過去から見た未来		

この表のポイントは、**現在形と現在完了形は全く別物ではなく、共に現在の出来事を表すための形である**という点では**共通**しているという点です。この点を理解していくと、以下のような中級者でもたまにやってしまうミスが分かるのではないでしょう

か。

アウツ *Ayer he hablado con él.*

昨日私は彼と話した。

そうです、「昨日」という過去の出来事を表すのに、現在完了形という現在の出来事を表すための形を使ってしまっているので↑の文は奇妙なのです（ちなみに点過去を使うべきケースです）。日本語という言語では**完了**と**過去**をほぼ区別しないので、英語でもスペイン語でも、現在完了形と過去形を混同する人が多いです。現在完了形というのはむしろ、ある種の現在形であるということを理解してください。

2. 「過去時点で終わっていない出来事」、「過去時点で終わった出来事」

「昨日」とか、「一年前」のように、現在とは別の過去時点の出来事を表すのには過去形を使用します。そして、現在の場合同様、「過去時点で終わっていない出来事」と「過去時点で終わった出来事」を表すための二種類の活用が存在します。

「過去時点で終わっていない出来事」の方からいきましょうか。「昨日三時ごろは**勉強していた**」とか、「三年前、私はスペインに**いた**」のような、過去のとある時点で続いていた出来事ですね。こういう出来事は**線過去形**を使って表します。

	終わっていない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablaba 線過去	
過去の過去		
未来		
過去から見た未来		

「過去時点で終わった出来事」の方はもうおわかりですね。点過去を使います。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablaba 線過去	Hablé 点過去
過去の過去		
未来		
過去から見た未来		

さて、このように時制を体系で考えてみると、線過去と点過去の違いも見えてくるのではないでしょうか。線過去と点過去だけを見ているだけでは気づきづらいのですが、**表からわかる通り、線過去には「現在形の過去版」、点過去には「現在完了形の過去版」という側面があります。**そして、これは両者の根本的な違いでもあります。

こういう理解をしておくことのメリットはそれだけにとどまりません。例えば、以下のような事実も自明のこととなります。

- 線過去形は過去の習慣を表す
→現在形が現在の習慣を表すんだから当然。
- 従属節内の現在形は時制の一致を受けると線過去になる
→線過去は現在形の過去版なんだから当然。
- 従属節内の現在完了形は時制の一致を受けると点過去になる
→点過去は現在完了の過去版なんだから当然。

などなど。長々書きましたが、本質は、**現在形と線過去は地続き、同様に現在完了と点過去は地続き**。ということです。スペイン語にやたらたくさんある時制はそれぞれ全く別物というわけではなく、似たものが結構ある、ともいえます。

3. 「過去の過去時点で終わっていない出来事」、「過去の過去時点で終わった出来事」

「過去の過去」というニッチな時間帯に起こった出来事を表すための専用の活用形が西欧の言語には存在します。以下のようなケースを想定してみましょう。

私が駅に到着した時、電車は既に出発していた。

A

B

「駅に到着した（A）」のも「電車が出発していた（B）」のも共に過去の出来事で

す。ところが、B の出来事は A の出来事よりも前の時点に起きています。この B のような、過去のある時点よりもさらに前の時点、を「過去の過去」と呼んでいます。

さて、この「過去の過去」に「終了する」出来事を**過去完了形**、ないし**大過去形**と呼びます。「Haber の線過去形 + 過去分詞」です。表を埋めましょう。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablabo 線過去	Hablé 点過去
過去の過去		Había hablado 過去完了（大過去）
未来		
過去から見た未来		

さて、これまでの流れ的に、「過去の過去に終了していない出来事」を表すための専用の形がありそうですが、さすがにそこまでニッチな形は存在しません。こういう出来事は、線過去で表します。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablabo 線過去	Hablé 点過去
過去の過去	Hablabo 線過去	Había hablado 過去完了（大過去）
未来		
過去から見た未来		

本学の一部クラスの後期中間テストでは、「括弧内の動詞を現在完了形か過去完了形の適切な方の形に活用しなさい」という問題が出ます。私的にはこれ、はっきりいってサービス問題です。表を見ていただければわかる通り、両者はかなりかけ離れた使い方をしますので（名前が似ているのがよくないのですがこれは仕方ない。）。時制をきちんと理解していれば、現在完了か過去完了で悩むということはそもそもないはずです。体系で理解する重要性、ですな。

4. 「未来時点_で終わってい_{ない}出来事」、「未来時点_で終わった出来事」

現在、過去とみてきましたが、スペイン語にはこの他に、未来の出来事を表すための動詞の活用形が存在します。より正確に言うと、「未来時点_で終わってい_{ない}出来事」、「未来時点_で終わった出来事」を表現するための専用の形式があるということです。

もうパターン見えてきた頃でしょう。そうです。「未来時点_で終わってい_{ない}出来事」、つまりは、「明日宿題をやるだろう」とか、「来年はキャンプをしよう」のような表現は未来形を使用します。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablabo 線過去	Hablé 点過去
過去の過去	Hablabo 線過去	Había hablado 過去完了（大過去）
未来	Hablaré 未来	
過去から見た未来		

そして「未来時点_で終わった出来事」もパターン通り、未来完了形で表します。「未来時点_で終わった出来事」をうまくイメージできますか。「明日の三時には宿題を終えているだろう」とか、「来年には自転車に乗れるようになっているだろう」などが該当します。未来に完了して_るでしょう、宿題を終えたのも、自転車に乗れたのも。何度も言うようですが、西欧の言葉を使いこなすうえで必須なのは、こういう二ツ_チな時間を動詞の活用によって表現することです。

	終わってない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablabo 線過去	Hablé 点過去
過去の過去	Hablabo 線過去	Había hablado 過去完了（大過去）
未来	Hablaré 未来	Habré hablado 未来完了
過去から見た未来		

5. 「過去から見た未来時点での終わっていない出来事」「同未来時点で終わった出来事」

もう書いて飽きてきたのですが、「過去から見た未来」という時間帯に起きる出来事を表すための専用の活用形があります。例によって、終わっていないものと終わったものですね。ぶっちゃけた話、過去未来と過去未来完了です。詳しくは高校の時の英語の教科書でも参照してください。スペイン語でも英語でも「過去から見た未来」という概念は共通ですから。この教材的に大事なのは、「過去から見た未来」であっても、無印形と完了形が存在することです。

	終わっていない出来事	終わった出来事
現在	Hablo 現在形	He hablado 現在完了
過去	Hablabo 線過去	Hablé 点過去
過去の過去	Hablabo 線過去	Había hablado 過去完了（大過去）
未来	Hablaré 未来	Habré hablado 未来完了
過去から見た未来	Hablaría 過去未来	Habría hablado 過去未来完了

まとめ

思いのほか長くなってしまいました。学部生のレポート二本分くらいじゃないでしょうか。長々と書いたのですが、伝えたいことは一点、スペイン語の時制とは個別に勉強するだけではだめということです。それぞれパズルのピースのようなものですから、それぞれがどのように組み合わさり、全体としてどのような画になるのかを理解して初めてそれぞれの時制を使いこなせるようになります。

この教材のまとめ方は、言語学的、というか厳密な立場からいえば大雑把すぎたりしますし、不適当なところがないではないですが、とりあえずはこの理解でいってみましょう。実際にスペイン語と格闘する中で、この教材と矛盾するようなケースに出会ったとき、みなさん一人一人で微修正を加えていってくれれば。